

報恩講

桑名の坊さん

如来大悲の恩徳は

身を粉にしても報ずべし

師主知識の恩徳も

骨をくだきても謝すべし

(恩徳讃)

2022年12月20日(火)~23日(金)

真宗大谷派 (東本願寺)
桑名別院 本統寺

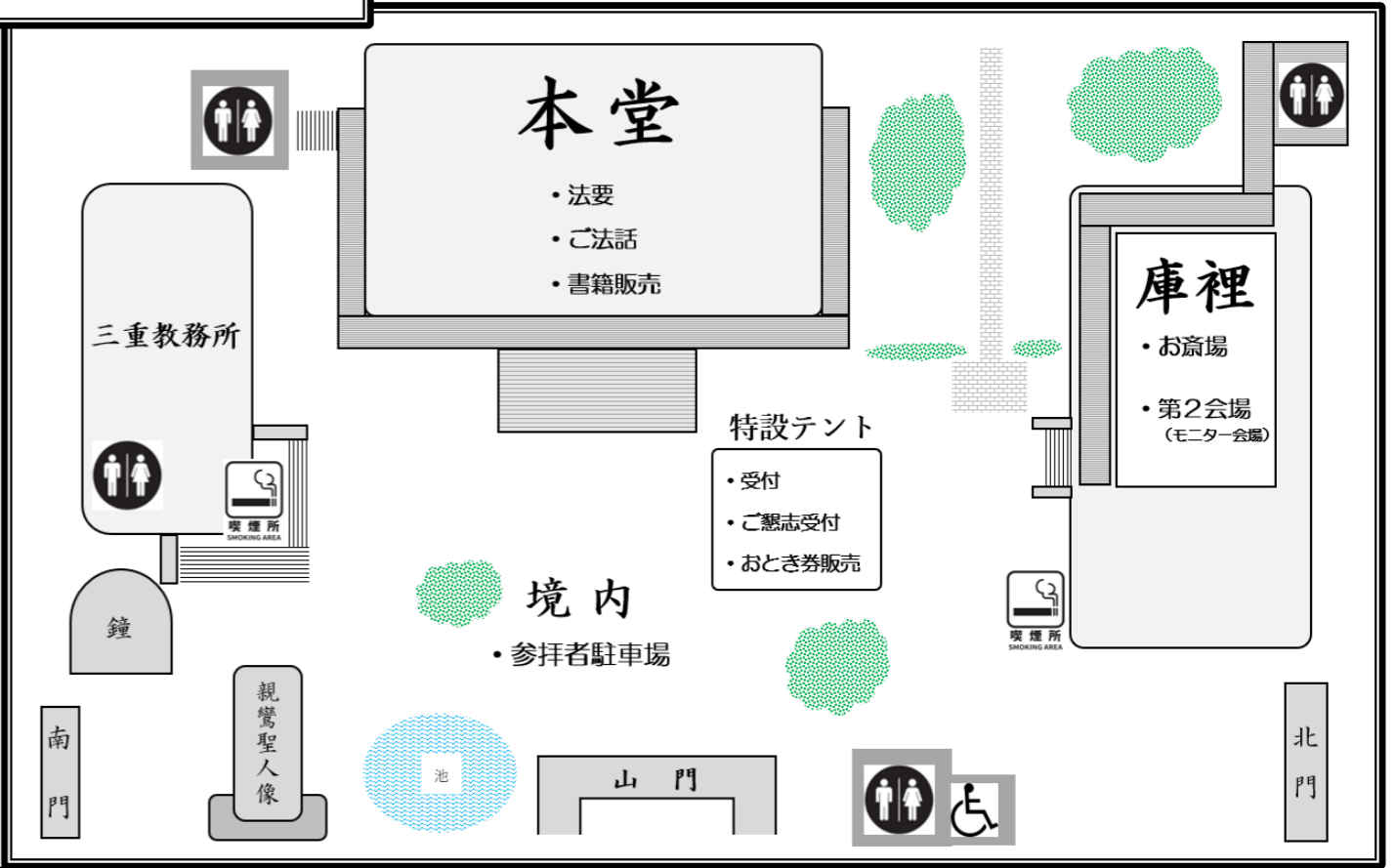
〒511-0073 三重県桑名市北寺町47番地
TEL (0594)-22-0652
FAX (0594)-22-0681
URL <http://mie-betsuin.com/>



詳しくはホームページより

境内案内図

※駐車場は境内以外にもございます。案内係りの誘導に従ってください。



大提灯について

修復された「大提灯」が参拝者をお迎えます。

この大提灯は2001年4月に勤められた別院の「蓮如上人五百回御遠忌」を記念して作られ、昨年、皆様の募金により経年による劣化の修復が成されました。日の短い季節ですが、皆様の思いが詰まった大提灯が優しく境内を照らしています。



お斎について

会場：別院庫裡 / 時間：10時30分~13時00分

「お斎(おとき)」とは元々、一日一食とされた元来仏教の出家者が午前一度のみいただく食事のことをいいます。現在では各寺院・御門徒宅での法事の際に用意する食事のことをいい、皆で野菜を持ち寄り料理をつくり、一緒に食事をする中で、人と人のつながりや信仰を確かめる場として受け継がれてきました。その大切な文化も昨今は新型コロナウイルス感染症の影響により、中止されてきましたが、別院では今年より再開いたします。感染対策を講じて行うため、従来のお膳での提供ではございませんが、味御飯を中心としたお弁当形式とともに桑名別院報恩講伝統のお味噌汁も復活いたします。

ぜひお斎券をお持ちの上、庫裡までお越しください。

なお、お斎券は報恩講のご懇志1,000円以上お納めいただいた方にお渡ししております。

事前に別院かお手次のご寺院、もしくは当日受付にてお求めください。



お茶

12月20日(火)

音楽法要 (三重教区合唱団「ひかり」)



報恩講初速夜に先立ち、報恩講をお迎えする慶びと宗祖の恩徳を仰ぎ「音楽法要」をお勤めします。
この音楽法要は、本山での宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌を縁として制作された新実徳英氏作曲の音楽法要曲を用います。この法要曲は、同朋唱和により、僧侶・門徒が共に唱和できるよう編成されています。
ご一緒にご唱和ください。

法話 三枝 正尚 (岐阜高山教区随縁寺住職)

初速夜

正信偈 真四句目下
念仏讃 淘八
和遍反 弥陀成仏ノコノカタハ 次第六首
五遍反 我説彼尊功徳事
回文向 大坂建立(四帖目第十五通)

法話 三枝 正尚 (岐阜高山教区随縁寺住職)

初夜勤行

正信偈 草四句目下 同朋奉讃式
御伝鈔 上巻 拝読者 佐々木智教 別院列座

12月22日(木)

中晨朝

正信偈 草四句目下
同朋唱和 淘三
念仏讃 弥陀成仏ノコノカタハ 次第六首
和讃 願以此功徳
回文向 毎年不闕(三帖目第十一通)

引き続き法話 片山 寛隆 (別院責任役員)

伽陀 稽首天人
登高座 若非釈迦
式嘆徳文 世尊説法
念仏讃 身心毛孔
和讃 直入弥陀
回文向 願以此功徳

法話 渡邊 浩昌 (員弁組 西願寺前住職)

結願速夜 (楽) 大谷浩之 鍵役御参修

正信偈 句切
念仏讃 淘八三重念仏 附物
和遍反 五十六億七千万 次第六首
回文向 世尊我一心 附物
御俗姓

法話 渡邊 浩昌 (員弁組 西願寺前住職)

12月21日(水)

初晨朝

正信偈 草四句目下 同朋唱和
念仏讃 淘三
和讃 弥陀成仏ノコノカタハ 次第六首
回文向 願以此功徳
御俗姓 三ヶ条 (四帖目第六通)

引き続き法話

花山 孝介 (別院責任役員)
文類偈 真四句目下
念仏讃 淘八
和讃 光明月日二勝過シテ 次第六首
回文向 願以此功徳

法話 伊藤 英信 (四日市組 本誓寺前住職)

中速夜(楽)

正信偈 真四句目下
念仏讃 淘八三重念仏 附物
和讃 十方微塵世界ノ 次第五首
五遍反 弥陀ノ名号トナ(ツ、六首目
回文向 世尊我一心 附物
御俗姓 中古已来 (四帖目第五通)

親鸞聖人讃仰講演会

講師 草野 顕之 (大谷大学名誉教授)



元佛教史学会会長。専門は日本仏教史(中世)・真宗史
一九五二年、福岡県生まれ。大谷大学文学部史学科卒業、大谷大学大学院文学研究科博士後期課程満期退学。博士(文学)。大谷大学文学部史学科専任講師、助教授、教授および大谷大学学長(二〇一〇・一六年)を歴任。

初夜勤行

正信偈 草四句目下 同朋奉讃式
御伝鈔 下巻 拝読者 渡邊 恵 (教区准堂衆)

12月23日(金)

結願晨朝

正信偈 真説
念仏讃 淘八
和讃 南無阿弥陀仏ノ回向ノ
五遍反 我説彼尊功徳事
回文向 驚聖人 (三帖目第九通)

引き続き法話 安田 雅 (別院輪番)



帰敬式とは、一般に「おかみそり」と呼ばれ、お釈迦様の教えを依りどころとして人生を歩んでいくことを告ぐる大切な儀式です。おかみそりを受けて、仏・法・僧の三宝に帰依することを誓い、仏弟子としての名告りである「法名」をいただきます。

法話 池田 勇諦 (桑名組 西恩寺前住職)

結願日中 (楽) 大谷浩之 鍵役御参修

伽陀 稽首天人
登高座 若非釈迦
式嘆徳文 世尊説法
念仏讃 身心毛孔
和讃 直入弥陀
回文向 草四句目下 附物
御俗姓 淘八三重念仏 次第三首 附物
願以此功徳

報恩講

報恩講は、宗祖親鸞聖人の御祥月命日を縁として勤まる法要です。真宗門徒にとっては一年でもっとも大切で中心となる仏事として勤められてきました。
報恩講は親鸞聖人滅後、門弟たちが親鸞聖人の御命日にお勤めをしたことに始まります。宗祖三十三回忌の際には、第三代覚如上人が『報恩講私記』(式文)をお作りになって法要の次第を調べられ、後に覚如上人の子・存覚上人が『歎徳文』をお作りになって法要の次第に加えられました。そして第八代蓮如上人の頃には各地の寺院・道場でも広く勤まるようになりました。
思えば、私たちが生きていくうえには親の恩や師の恩など、いろいろな恩があります。それだけ大切なことですが、報恩講の恩とは、なにより親鸞聖人がいだかれた念仏の教えに会い、自らが生きる依り処を教えていただいたご恩のことです。そのご恩に感謝し、いよいよ親鸞聖人が明らかにされた真実のみ教えを聞き、共に念仏申す身となっていくことを誓うことが報恩講を勤める大切な意味なのです。

親鸞聖人讃仰講演会

三重教区の教学の振興と教化の推進を図るため「三重真宗教学学会」と共催し、二〇一七年より毎年報恩講にて開催しています。今年も、日本仏教史(中世)・真宗史の専門である草野顕之先生に「親鸞聖人伝の史実と伝承」と題し、御講演いただきます。

御伝鈔拝読

『御伝鈔』は正式には『本願寺聖人伝絵』といい、本願寺第三代の覚如上人が撰述された絵巻物です。これは、宗祖親鸞聖人の伝記として、最初のものであります。

毎年寺院の報恩講では、四幅(または二幅)の『御絵伝』が本堂の内陣余間に掛けられ、『御絵伝』が拝読されてきました。
桑名別院報恩講では御伝鈔を20日の速夜後に上巻が、翌21日の速夜後に下巻が拝読されます。

雅楽(附楽)

浄土を表現する荘嚴の一つに雅楽があります。如來から我々にかけられる願いの響きを表現しています。

桑名別院報恩講では三重教区を中心とする楽僧によって法要式中所作や声明旋律に合わせて奏でられます。

本山鍵役御参修

門首を補佐するとともに、本山御影堂の親鸞聖人御真影を安置するお厨子の御鑰(かぎ)の管理にあたる方が「鍵役」です。鍵役に法要に御出仕いただくことを「御参修」といいます。
桑名別院報恩講では、毎年、22日の結願速夜と23日の結願日中(御満座)に御参修いただきます。

本年は、大谷浩之鍵役(信悟院殿)に御参修いただきます。

登高座

登高座は、その法要の導師が、尊前において法要の趣旨・願い(表白)を述べらるもので、報恩講においては『報恩講私記』『歎徳文』の拝読のために『作法』です。導師は、楽あるいは伽陀で登壇し、焼香、三礼(三帰依)のちに拝読を始めます。拝読後は楽によって復座します。

